

Literature cited

Saunders, E. R. 1939. Floral Morphology Vol. II Cambridge.

* * * *

トベラ科の *Bursaria spinosa* の花部の解剖学的研究を行ない、花部諸器官への維管束導入の経路を明らかにした。

○ **Materials for the distribution of lichens in Japan (1)** 地衣類分布資料 (1)

○ *Actinogyra mühlenbergii* (Ach.) Schol. This species is one of the commonest lichens in eastern North America and has been reported also from Siberia (Llano, Monogr. of Lich. Fam. Umbilicariaeae in the Western Hemisph., 1950). In Japan, it has been reported only from the Shimokita Peninsula in northern Honshu (Kurokawa, Journ. Jap. Bot. 31: 351-352, 1956). Among the large collection of lichens of the late Dr. Y. Asahina, I recently found another specimen of this species, though the thallus is rather small (up to 2 cm in diameter) and sterile.

Specimen examined. Hokkaido. Prov. Ishikari: Mt. Ashibetsu, Y. Asahina 21969 (TNS). (Hiroyuki Kashiwadani)

Actinogyra mühlenbergii (オオウラヒダイワタケ) はイワタケ科に属する地衣類で、北米ではごく普通に見られ、シベリアにも産することが知られている。しかし日本では黒川道博士によって、下北半島の縫道岩山からただ一度報告されているだけで、きわめてめずらしく、その群落は 1974 年に国の天然記念物に指定された。最近、筆者は故朝比奈泰彦先生の標本を整理中に、表記の地衣を見出した。この標本は 20 数個の地衣体からなり、地衣体は小さくすべて無子器である。(柏谷博之)

□ 齋木保之: 薬用植物学 pp. 334. 広川書店, 東京 (1976, I) ¥4,800. これは新しい薬用植物学の教科書であるが、二つの大きな背景が働いていると思われる。その一つは近年少くとも 数個発表された分類系であって、本書が薬用植物以外に全科を記述し、それにむしる薬用植物を排列した観があるし、一応エングラールの第 12 版を基準としているが、北村, Hutchinson, Takhtajan, Cronquist の分類を表示しているのはこの事を示すとみてよい。第二は Chemotaxonomy への誘惑である。書中に有効成分以外の成分の化学構造を多くかかげたのはこれを反映しているとみる。じつに多数の成分が載っており、その有機的関係が系統的にさぐれたら素晴らしい分類の決定版を生むであろう。これらを考えると、この本は単なる教科書ではなく、分類書への資料でもあるといえる。惜しむらくは誤植がかなりある。これはぜひ直してほしい。教科書であるからなおさらである。(前川文夫)